



## 校内研究の更なる充実



### 研究の出発点と到達点を結ぶ道筋の共有 －仮説の設定及び検証－

全ての教師が協働で授業研究を進めるためには、具体的な手立てについて共通に認識しておく必要があります。

そのため仮説を立て、何をどうすることによって、ねらいを達成するのかを言語化しておくことが重要です。

当然、研究授業推進の眼目は、仮説の検証にあります。

仮説は、次の要素から成ります。

- ① ～において <対象の限定>
- ② ～することにより <手立ての工夫>
- ③ ～ができるであろう <ねらい>

(例) 【主題】 確かなコミュニケーション能力の育成

【仮説】 ① 各教科の1対1又は少人数の

話し合い活動において、② 事前に話す内容を充実させ、中心点を明確にした上で、聞き手の理解を重視した相互啓発を行わせることにより、③ 確かなコミュニケーション能力を育むことができるであろう。

※ 仮説を立てることにより、研究の出発点と到達点を結ぶ道筋が明確になるため、効率的・効果的に研究を進めることができ、評価も行いやすくなります。



## 青年の教育

実業家 渋沢栄一

青年の気風の剛健なると、懦弱（だじゃく）なると、風雅なると、野卑なるとは、その学問の性質および教師の感化による。青年をして厭世（えんせい）思想を抱かしむるが如きは、教育がそのよろしきを得ないからである。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 教師の感化、とりわけ義務教育段階は大きなものがあると考えます。